

平成 29 年度 第2回東区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成 30 年 12 月 21 日 (木) 午後 1 時 30 分から午後 2 時 45 分まで
会 場	東区プラザ
出席者	東区自治協議会委員 27 名 (欠席 3 名) 教育委員：伊藤教育委員、田中教育委員 事務局：教育総務課長、地域教育推進課長、学校支援課長補佐 東区教育支援センター所長 他 1 名 東区役所：齋藤区長、夏目副区長、清水地域課長、他課長 6 名 傍聴者：0 名
議 事	1 開会 2 教育委員挨拶(伊藤教育委員、田中教育委員) 3 出席者紹介 4 懇 談 (司会 東区教育支援センター所長)
司 会	最初に、テーマにかかわる区内小学校、中学校における取組と課題について説明していただきます。
石川 小学校 長会代表	東区内の小学校では、子どもたちが「地域を知る」「地域に貢献する」というめあてをもって様々な活動に取り組んでいます。 資料にありますように、それぞれの地域の特徴や特色を生かし、地域探検や町探検を行っている学校、地域の文化や歴史を調べる学校、高齢者宅への訪問を行っている学校、地域の祭りに参加する学校、農業体験や栽培活動を行っている学校と、各学校がそれぞれの地域を活動の場とした教育活動に取り組んでいます。また、コミ協や育成協などの地域の皆さまや行政の方々、から参加を得て活動している学校が数多くあります。 このような活動を通して、地域のためにできる活動を自分たちで考え、実行していくこと、また、地域の皆さんのために役に立つことができたという思いをもつことは、「地域を愛し、地域に誇りをもつ」子どもを育てるための基盤となると思います。 そのためには、地域の皆さんがどのようなことを課題とし、どういうことを求めているのかを学校としても知りたいと考えています。地域の皆さんと学校とが協働し、子どもの学習ともつなげながら、地域の課題を解決したり、よりよい地域をつくったりする活動を進めていけることを願っております。
今町 中学校 長会代表	中学校では、教育課程外の活動が多いという状況です。具体的には、生徒会や部活動等を主眼とした教育課程の外にある活動があります。 生徒会の活動では、地域のボランティア活動としての清掃活動、介護施設等でのサポート活動等が見られます。また、生徒会の役員等が地域の行事のスタッフとしての運営や地域の今後を中学生として考える活動に参画してい

ます。部活動としてでは、多くの学校で、吹奏楽部による地域行事への参加とか、美術部による地域環境の整備ということも行っています。

教育課程内の活動としては、キャリア教育としての職場体験で地域とつながった教育活動を展開しています。地域の未来を考える学習や地域の環境整備に関する学習を行っている学校もあります。また、田中教育委員様から防災学習についてのお話がありましたが、各中学校とも、地域とつながった防災学習、防災教育に取り組んでいます。

最後に課題としまして、一つは、人材のより一層の充実という点があります。パートナーシップ事業による地域教育コーディネーターの活躍により、学校を支援してくださる場面が中学校でも増えておりますが、より一層充実することが望まれます。中学校では、部活動の支援にかかわる人材確保も課題となっています。

もう一つは、地域行政等のつながりです。各学校がやっている活動が、学校の独り善がりにならないように、地域のニーズとマッチングさせることが大切となります。

もう一つは、中学校によっては複数のコミ協がある学校があります。そういった場合の調整や連携をより一層進めていくことが課題だと思います。

司 会

事前配布の資料や校長先生方から紹介していただいた事柄につきまして、質問・感想・ご意見、あるいは、ここで懇談してみたいというようなことがございましたら、第2部会委員の皆さま、ご発言いただきたいと思います。

桑原 自治協
委員

2点お願いします。

一つは、地域防災と児童生徒の関わりについてなのですが、資料を見ますと、木戸中学校さんでは休日に振替を行って、コミ協をはじめとする地域と連携して一緒に活動していると書いてありますが、私らコミ協でも、こういう形が取れば、非常にありがたいと思います。けれども、学校全体から見ますと、授業時数の増加とか、いじめの問題やいろいろな問題を残しております。その中において、振替等で対応していただくことは、先生方にとって大変な負担につながることにならないのかということですが。

二つ目は、この課題集約に、今までは、地域の方に支援してもらうことが多かったけれども、今後は、児童や生徒自身が地域に貢献をしていくことに重視していきたいと書かれておりました。ぜひ、それを進めていただければありがたいなと思っております。

高橋 自治協
委員

課題集約の人材に関する課題として、保護者の協力がむずかしくなっているとか、ボランティアの高齢化とかということがありますが、保護者の方は仕事をしている方もいらっしゃるのです、保護者に頼るのではなく、地域の方にお問い合わせるとか、コミ協や公民館からの人材発掘など、いろいろなところ

に手を伸ばして情報収集を行い、いろいろな方から参加していただくと協力してくださる方に広がりが出てくると思います。

吉田 自治協
委員

田中、伊藤両教育委員さんにぜひお願いしたいことがございます。先日の市長がおいでになられた地域ミーティングにおいても、自治協の大江委員から意見させていただいたのですが、内容は、東区に、学校に行けない子どもに対する適応指導教室をつくっていただきたいということです。

旧新潟市以外の区には適応指導教室を設置されていますが、旧新潟市では、もともと中央区にあったものだけとなり、東区には設置されていません。特に、この東区は不登校の子どもが多いです。現状は、中央区に行ったり、江南区に行ったりしています。合併して10年たちますけれども、その辺が全く整理がついていない状態です。先日の地域ミーティングでも市長さんからは、現状の説明で止まっているということでした。ぜひ東区担当の教育委員さんに私たちの思いに同調していただいて、何とか子どもたちに適応指導教室が開設できるように働きかけていただきたい。地域を愛し、地域との交流をもつ児童に育ってもらうには、学校に行けなくなった子どもたちに対してのケアを十分にさせていただけるような体制をぜひつくっていただきたい。ほかの区にあるわけです。東区での設置に向けて頑張っていただきたいという要望です。ぜひお願いしたいと思います。

佐藤 自治協
委員

資料には、地域の方と一緒に防炎について書かれていますが、もしも何かあった場合は、地域の方がすぐ出られるというわけにはいかないし、そういうときの子どもと先生だけという避難の仕方など、そういうことは頻繁にやられているのでしょうか。地域の方との防炎訓練も大事ですけど、学校での防炎への対応はしているのでしょうか。

司 会

これまでの感想、意見の中で、防炎という観点がいくつかで出されたので、防炎に焦点づけて、地域の思いと学校の思いをどのようにして一つにして取り組んでいったらいいかということについて、懇談の一つ目の柱とさせていただきますと思います。

もう一つの柱ですが、少し本日のテーマとは異なりますが、吉田委員からお話がありました適応指導教室、教育相談室とも呼びますが、そういうものをつくっていただきたいという要望について、皆さんからご意見をいただいきたいと思っています。この2点に絞らせていただいてよろしいでしょうか。

自治協委員

はい。

司 会

地域と学校が協働する防炎教育、訓練については、中学生から訓練とかいろいろなところに出てきてほしいという地域の要望が結構あるのですが、な

かなかうまくいっていない状況がございます。こういう点を地域と学校が一緒になってやっていくために、何が大事かというようなことになるかと思えます。その前に、質問として、土日を授業日にしたときの学校の負担というようなご質問がありました。学校現場はいかがでしょうか。

今町 中学校
長会代表 振替えについては、木戸中学校さんが先進的な形で取り組まれていて参考になるところなのですが、負担からすると、基本的にはないかと思えます。中学校では、土日は、シーズンにもよるのですが、部活動の大会だったり、練習試合などが入っていて、少し調整が必要なケースもありますが、今現在、文化祭や合唱コンクール、体育祭は振替えでやっています。地域の防災についても、振り替える必要があるのであれば、部活動の大会や練習試合をさておいても、そっちを優先すべき内容かなと考えています。

吉田 自治協
委員 日程の調整に関してですが、私は、牡丹山小学校区コミュニティ協の会長をしておりまして、学校の行事と地域の行事がバッティングしないように、毎年、コミュニティカレンダーというのをつくっております。これは、小・中・幼稚園の先生方からも、企画のときから入っていただいて、地域の祭りや各学校の行事などを全部1冊の年間カレンダーにまとめて、地域全体に配布しています。それにより、地域の行事と学校の行事がバッティングしないように調整しております。

司 会 教育委員の方からは、中学校区教育ミーティングで4中学校区にご出席いただきましたが、土日を授業日にすることの必要性や難しさといったところについてご発言いただけるでしょうか。

伊藤 教育委
員 今年度は、防災教育の地域と学校の連携事業ということをテーマに、中学校区の各取組についてお話を伺いました。その中で、土曜日や日曜日を授業日として振り替える、しかも小学校と中学校という複数の学校と複数のコミ協が何とかして同じ日に合同で防災訓練を初めてやってみたという話を伺いました。規模の大きいや小さいもありますけれども、やってやれないことはなかったなんていうお声も聞いたり、あとは、やれたところもあるんだったら検討してみましようかとか、学校が振り替えるということで、「学校行事と一緒になんですね。地域の私たちと一緒にできるんですね」というようなお声も伺ったりしてまいりました。

自分たちもそうですけど、課題があればあるほど、まず意見を出し合って、学校のニーズ、地域のニーズ、それから、子どもたちの願い等、また託したい未来、地域の魅力などもありますけれども、そういうものをみんな分かるように、つまり、情報の共有というか、広報活動が重要だと考えます。

田中 教育委員

先ほどの振替の話ですと、木戸中学校さんは振替ができるのだけれども、東新潟中学校さんの場合、4つのコミ協が重なっているために、ある一つのところだけを振り替るわけにいかないという話なんですね。東区のもっている地域性の課題なんだと思って聞いていました。そういう中で東新潟中学校さんでは、1年生がそれぞれの地域の防災訓練に参加して、そこで地域とのつながりをつくっていくことに取り組んでいました。全部振替ということではできないけれども、学校の実情に応じながら子どもたちが地域との連携をつないでいくという事例でした。

いざ何か起きると、昼間であれば、その地域にいるのは、学校の先生と中学生であり、親御さんたちは皆さん、遠いところに仕事に行っていてなかなか駆けつけられない。そこで、中学生から一線に出てもらうような、そういう訓練も必要なのではないかということで、中学生に対してのその役割を明確にします。そして、やったことに対しての称賛「よくやったね」「頑張ったね」そういう声掛けをしながら、子どもたちの自己肯定感を高めて、いざというときに、中学生からも頑張ってもらえる、そんなつながりをつくっていきたいというような声が、どの地域からも出ておりました。大変力強い声だと思って聞いておりました。

司 会

昨年度あたりから、地域と学校が一緒になってという意識は随分出てきております。これを、どんどん盛り上げていって、ぜひできるようにしていきたいと思いますが、質問の中で、「学校独自の防災訓練はやっているのですか」という質問がありましたが、いかがでしょうか。

石川 小学校長会代表

学校では、定期的に避難訓練というものを行っておりまして、火災や津波・地震の想定、不審者が入ってきたらどうするかという訓練を行っております。火災では避難経路の確認、地震では教室待機をして体育館に安全を確認して集合など、そういう形のものを行っております。そういうものを含めて避難訓練を、年に6回から7回くらい実施しています。

司 会

学校独自でやっていますが、これからは、学校と地域が別々ではなくて、どうやって一緒にやっていけるかというところが課題になるかと思います。例えば、小学校や中学校が一緒にやるとなったときに、そこに関係しているコミ協さんが別々な日に防災訓練が計画されているような状況だと思うのですけれども、それを合わせていただくというようなことが必要になってきます。学校からの相談等がありましたら、よろしく願いいたします。

続いて、2つ目の柱に行かせていただきたいと思います。適応指導教室、教育相談室等を、東区にもということでありますが、ここはまず、学校支援課から、教育委員会の考えを示していただきたいと思います。

齋藤 学校支援課長補佐

学校支援課では、不登校が懸念される子どもについて、個別のシートをつくり、普段の様子とか不登校の原因、その子の好きなこと・得意なこと、苦手なことなどを明らかにして、とにかく一人一人に寄り添って、不登校をなくしていこうという取り組みを始めています。

不登校の児童生徒への対応では、中央区にある新潟市の教育相談センターが、主に東区、中央区、西区を担当しております。中央区にある教育相談センターは拠点というか、さまざまな機能を踏まえた、新潟市の不登校等への対応の中心になっているセンターです。

今、東区の不登校の児童生徒のうち22.4%が、教育相談センターや江南区の教育相談室を利用しているという数字が上がっています。文部科学省が発表している支援センターの利用率の全国平均は12.1%です。東区では、全国に比べて多くの子どもが教育相談センターを使っているということが分かります。さらに、今の不登校の子は昼夜逆転の生活だとか、あと引きこもりに近い状態のお子さんが出て、外出できないお子さんについては訪問するというか、お家に伺って対応するというも行っております。

今後は、これまで以上に一人一人に目を向け、状態をしっかり把握して、その中で東区に相談・指導するスペースをつくるのがいいのか、それとも学校に相談員が訪問して学校でチームとして話し合っていくのがいいのか、または家庭に行く人数を増やしたほうがいいのかといった対応を考えていきたいと思っています。

司 会

第2部会の皆さん、学校支援課の説明についていかがでしょうか。

山田 自治協
委員

地域ミーティングのときに市長さんがおっしゃった、学校で取り組んでいますというのが、支援課の方がおっしゃったことではないのかなと思います。ただ大江委員や吉田委員がおっしゃっていることは、今、学校に行けない子どもたちが足を運べる場所を東区につくってもらいたいという思いではないのかなと思います。ぜひ、東区に作ってほしいです。できたら出席にカウントできる場所として。

吉田 自治協
委員

さきほどの教育委員会のお話の中で、22%相談に来ているということは、逆に、そういうところをあてにしているという結果だと思うのですよね。それならば、なおのこと、この乗り物を使わなくても近くに通えるところをつくってもらいたいということを再度お願いしたいと思っています。

佐藤 自治協
委員

予算的に問題があったりなんかする場合は、既存の東区のプラザに場所があれば、子どもたちも一番来やすいし、皆さんも来られるしということではないんじゃないかなと思います。第2部会の話し合いで、ここならみんな来るし、不登校の子どもたちは、他の子どもたちには少し拒否反応示すけど、大

人はあまり怖がらないということを知りましたので、一番やっていけるんじゃないかなと思います。

司 会

教育相談センターの所長さんと話した時に、「不登校の子どもたちの多くは、人がいるところにはなかなか行けなくて、人混みのないような場所につくらないといけないだよ」ということを知りました。2部会の皆さんからは、「ぜひつくっていただきたい」というご要望ですが、今私がお伝えしたようなこと、あるいは、学校現場の子どもたちの様子、そういうようなことももう少しお互いに情報交換していく必要があるのかなと思います。この時間で方向性を出すのはなかなか難しいのかなと思っております。今日を第一歩として、今後、地域の皆さんと教育委員会、学校との話し合いを進めていくということでもよろしいでしょうか。

自治協委員

(うなずき)

司 会

ここまで、防災に関して、それから、適応指導教室に関してご意見いただきました。これから、第1部・第3部の皆さんから、ご意見、ご要望等をお願いしたいと思いますが、今の件に関わってもよろしいですし、それ以外のことで結構ですので、ご意見、ご要望ありましたら、お願いいたします。

井上 自治協
委員

うちの近所に、やはり不登校の子どもさんがいまして、特に月曜日は行けません。親しくしているので、私の家には来るのですけれども、今、学校支援課の課長補佐さんが、一人ひとりの困り感を把握しながら訪問するとお話しされましたが、各学校では、不登校児童生徒にどのような対応をされているか教えていただきたい。

今町 中学校
長会代表

中学校の対応ですが、教育相談センターの昼間の適応指導教室に通っているお子さん、夜間に進路学習に通っているお子さんなどセンターを利用しているお子さんがいますし、校内で、通常の学級には入れないんだけど、校内に設置している適応指導教室で職員がついて指導を受けているというお子さんもいますし、いずれにも関わらず家でいるというお子さんもいます。

司 会

これも教育相談センターの所長さんと話をした時に出てきたのですが、平成18年から26年度まで、全国で160カ所の新しい適応指導教室ができたのですが、不登校の子どもたちの利用率が18年度の13%が26年度は12.1%まで下がっているそうです。つまり、適応指導教室を増やしたけれど利用率が下がってきている状況があります。そこで、国は、訪問指導、あるいは、顔見知りの地域の方々から行ってもらう地域型の訪問支援システムなどをつくって対応できるようにしていくという方針を出したということです。

このようなことを踏まえて、学校支援課では、話し合いをさせていただきたいというふうに考えているということのようです。

菊谷 自治協
委員

東石山中学校区の防災訓練では、昨年から、学校と地域の住民、各自治会、南中野山コミ協と、東中野山コミ協が一緒になってやっています。今年は、昨年の反省を踏まえて小、中学校に申し入れをして、部活動等を変更か中止にして全員参加という形でやってもらえないかとお願いしたところ、快く返事をいただきまして、小・中学生全員参加で実施しました。

小学生が中学生に連れられて学校へ行くのですが、お姉さん、お兄さんたちの言うことをよく聞いて避難をしました。中学生には避難要支援者に対して、「地震が起きて津波が来ますよ」という伝達訓練をしたところ、避難要支援者から子どもたちがこんなことをしてくれるのはうれしいというような声が聞かれました。また、中学生には「釜石のこともあるから、皆さんが先導してやってくださいね」と言ったら「はい、分かりました」なんて言ってくれました。今年の防災訓練は成功のうちに終わったと思います。来年は10月6日。今年よりも10日間早く、両方のコミ協と3校の学校で避難訓練をする予定です。

もう一つお願いがあるのですが、青少年育成協議会というのがあります。これは、地域の人たちの寄付で賄っているものなのです。いろいろ活動していますが、一番の難問はお金です。特に、観光バス3台で、120人の小中学生と行ってくるスキー授業では、皆さんからもお金を出していただくのですが、カツカツになって、最後はどこからか調達してこななければいけないような状態になります。教育委員会でも、スキー授業があるんですよね。今年も市報に出ていたのですが、そのときに、補助金が出ているなら、うちの方にも補助金が欲しいなと育成協議会会長から言われましたので、ぜひその辺をよろしくお願いしたいと思います。

緒方 地域教
育推進課長

今、2つの話をちょうだいしました。ありがとうございました。

1点目の2つのコミュニティ協議会が一緒になって話をし、小、中学校と一緒にできる方法を協議をされた。これはすごく大事なことだと思います。特に中学校が動くためには、複数のコミュニティ協議会があると、連携協働が必要になってくるので、非常にいい例をお聞かせいただいたなと思っています。これからもお願いします。

2点目の育成協議会ですが、新潟市内に50の育成協議会がございます。新潟市から、ほんのわずかなのですが、補助金をお渡ししておるのですが、その補助金では、イベントに賄うだけの補助金とはなりません。大変恐縮なのですが、何とか工夫をしていただけるとありがたいなと思っています。よろしくお願いたします。

大江 自治協 委員	<p>。2点ほどお願いとか感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。</p> <p>1つは、今日の教育ミーティングは、大変充実したなと思います。それは石川校長先生、今町校長先生が、よく説明して下さったのもありますし、資料を整えて下さって、話し合いをしやすいして下さったからだだと思います。こういう形で今後も進めていっていただきたいと思います。</p> <p>一番大きい課題は、教員の負担軽減という問題です。地域に住んでいる私たちにとってみれば、地域の者と行政、学校とが一緒になって、お互いに現状を出し合って、調整したり、考えを出し合ったりしながら、できるだけ負担軽減を図りながら、充実していく方法を探っていただければありがたいなと思います。それが一点です。</p> <p>2つ目は、先ほどの適応指導教室の件です。東区は大変多いんですよ、不登校の子どもたちが。その中に、中央区まで車で送り迎えができない人とか、忙しくてできない人がいると思います。私の知っている子どもには、地域の方々が関わって、一生懸命、毎日毎日家庭訪問して下さって、ようやく学校に出られた中学生もいます。それから、5分だけ学校に来て帰っていく子がいます。それは出席日数を増やしたいからです。でも、学校に行けない子どももいます。そういう子どもにも保障してやるのがやはり必要です。人数が少ないから切り捨てるのではなくて、そういう子たちのことも考えて東区に設置していただきたい。地域に貢献するその子どもたちを育てていく一つの礎になってほしいと思っています。以上です。</p>
司 会	<p>時間が迫ってまいりました。それでは、教育委員さんから、最後に発言をお願いしたいと思います。</p>
伊藤 教育委 員	<p>今年度から、東区の担当ということで、一緒に意見交換をするお姿を見て、非常に私も励まされたり、ほんと、勉強になりました。</p> <p>やはり駄目なことはなくて、まず話し合うことからだと思います。後は、何の目的で、これをやっているんだっけと常に振り返りながらやる。一人一人に寄り添うような形で対応する、一人一人が心の距離を縮める、一人一人が私にもやれることは何かと考えて行動することが大事だと思います。</p> <p>今年度、教育ミーティングでテーマとした防災教育についてですが、各学校が指定校として取り組んでいただいています。各学校の自校化プログラムの取組としていろいろな事業をしたり、地域との連携をするいろいろな活動をしたり、最後にはそれを振り返る。そして、指定校じゃなくなっただけの後が大事なのです。いざとなったときに、小学生も中学生も一人ひとりがまず逃げるとか、避難所での話し相手になるとかについて、地域の人、学校、そして、子どもさんたちと一緒に考えるという防災教育、防災訓練をこれからも行っていくことが大切です。また、防災だけでなく、普段の生活でも、どんな方に安全なお声がけしてもらっているかなど、そういう顔が見える普</p>

段の関係が、いざとなったときの避難所でのお声を掛けや、和やかな避難所の活動、生活協力体制につながるということもあるかと思うのです。

今日ご意見をいただいたものを持ち帰り、いろいろ各部のほかの担当の方たちと意見交換をして反映させていきたいと思います。本日は貴重な時間、ありがとうございました。

田中 教育委員

最初に、桑原委員さんのお話にあった児童生徒の貢献活動についてですが、昔は学校が地域の方々から助けていただく場面がたくさんあったわけですが、学校はただただで駄目で、子どもたちが地域へ出て行って、しっかりとつながっていくことが大事です。下山中学校の校長先生のお話にあったチューリップの花絵プロジェクトや、この資料の中にもたくさんございます。そういう様々な貢献活動に取り組むことによって、子どもたちの自己肯定感を高めたり、地域とのつながりをより太くしたりしていっています。

先ほどの菊谷委員さんのお話の中で、部活動を中止にして避難訓練等に取り組んだ時のことについて、中学生に対して本当に感謝していますという言葉がありました。そういう言葉を掛けていただくことによって、一層子どもたちが地域のために頑張ろうという気持ちを高めていきます。

それから吉田委員さん、大江委員さんのご意見でございますけれども、多くの課題を抱える学校現場の状況を察しての話ということで、大変重く受け止めさせていただいたところでございます。不登校の子どもたちの気持ちに寄りそって明日への希望をもって一步を踏み出す、その背中をそっと押してあげる、そういう取り組みや支援を、学校、地域がともに手を携えてやっていくというのが、本当に大事なんだろうと思っております。、いろいろな状況の中で、吉原所長もお話されていましたが、現状をしっかりと認識したうえで、その先どういう形で、この東区、あるいは新潟市全体が不登校の子どもたちに、しっかりと向き合っていくかということを考えていく必要があるかなと思っております。

大変貴重な、大変素晴らしいお話をたくさん聞かせていただきました。ありがとうございました。

5 閉会の挨拶（佐藤 東区自治協議会第2部会長）